

2016 年 1 月 29 日

2015 年度聖路加国際大学大学院課題研究論文

AYA 世代の男女が適切に男性用コンドームを
装着できるようにするためのリーフレットの開発研究

Leaflet Development for Adolescences And Young Adults
to Master The Correct Use of Condoms

学生番号 14MW014

氏名 三上 文香

目次

第1章	序論	1
Ⅰ.	研究の背景	1
Ⅱ.	研究の目的	2
Ⅲ.	研究の意義	2
Ⅳ.	用語の操作的定義	2
第2章	文献検討	3
Ⅰ.	日本における避妊の現状	3
Ⅱ.	日本における性感染症の動向と予防行動の現状	4
Ⅲ.	AYA 世代の男性用コンドーム使用に関する実態	5
Ⅳ.	安全な性行動を促進するための介入方法	6
第3章	研究方法	8
Ⅰ.	研究デザイン	8
Ⅱ.	研究の手順	8
Ⅲ.	倫理的配慮	10
第4章	結果	12
Ⅰ.	第1段階：質問紙による20代の男女の男性用コンドーム使用時の実態調査	12
1.	協力者の背景	12
2.	失敗時の感情	12
3.	失敗時の思考	13
4.	思い当たる失敗原因	13
5.	失敗後の対処行動	14
6.	失敗時の状況	14
7.	第1段階調査のまとめ	15
Ⅱ.	第2段階：試作版リーフレットの作成	16
1.	リーフレットの目標	16
2.	リーフレットの主要項目	16
3.	試作版リーフレット	18
Ⅲ.	第3段階：試作版リーフレットの評価 20代研究協力者による評価	20
1.	20代研究協力者による評価	20

2. 教育・保健医療分野の職種による評価.....	24
3. 第3段階調査のまとめ.....	26
IV. 第4段階：完成版リーフレットの作成.....	27
1. 完成版リーフレットの目標.....	27
2. 完成版リーフレットの主要項目.....	27
3. 指摘事項と修正項目.....	27
4. 完成版リーフレット.....	28
第5章 考察.....	30
I. 作成したリーフレットにより期待される効果.....	30
1. 正しい男性用コンドーム使用方法の知識・技術に及ぼす影響.....	30
2. コミュニケーションに及ぼす影響.....	32
II. リーフレットの活用場面.....	34
III. 研究の限界と今後の課題.....	35
第6章 結論.....	37
引用文献.....	エラー! ブックマークが定義されていません。

表目次

表 1. 男性用コンドーム使用時の失敗体験の有無	12'
表 2. 失敗時の感情	12'
表 3. 失敗時の思考内容	13'
表 4. 思い当たる失敗原因	13'
表 5. 失敗時の状況	14'
表 6. 内容の理解しやすさ	21'
表 7. 読みやすさ	21'
表 8. タイトルの適切性	21"
表 9. 手に取りやすさ	22'
表 10. 男性用コンドームの適切な使用に対する必要意識や自信の変化の有無	22'
表 11. パートナーとのコミュニケーションへの変化や影響の有無	23'
表 12. 10 代後半～20 代の男女に対するメッセージ	23"
表 13. 内容の理解しやすさ	24'
表 14. 修正・改善部分.....	24"
表 15. 読みやすさ	24"
表 16. 勤務先への設置可否.....	25'
表 17. 全体を通しての意見・感想.....	25"
表 18. 指摘事項と修正内容.....	27'

第1章 序論

I. 研究の背景

人々の生涯に渡る健康を考える上で、性の健康は重要なテーマである。無防備な性交による望まない妊娠や性感染症への罹患は心身の健康を妨げる要因となる。性交時にはこれらのリスクをできる限り軽減するための対策をとるべきであり、そのための方法を性交開始期までに習得していることが望ましい。第6回青少年の性行動全国調査報告(財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会, 2007a)によると男子大学生の 61.3%、女子大学生の 61.1%が、専門学校生では男子の 90.6%が、女子の 79.4%が性交経験を有しており、このことから高等教育終了の年齢までに適切な避妊・性感染症予防に関する知識を習得するべきであると考ええる。

若者の避妊に関する情報源として最も多く挙げられたものは学校・教科書である(池上, 岡崎,& 高田, 2009; 亀崎, 田中,& 村上, 2012)。だが、平成 24 年 4 月より実施されている現行の文部科学省学習指導要領(2008)では、男性用コンドームの適切な使用方法を教えることは定められておらず、すべての男女が性行動開始前に適切な使用方法を習得する機会があるとは言えない。若者にとって身近な情報源であるインターネット上には、男性用コンドーム装着方法の説明や動画なども存在するが、不適切な情報も多く存在し情報の取捨選択能力が乏しい場合は正しい情報を入手することが困難であると考えられる。また男性用コンドームのパッケージ内には取扱い説明書が同封されており、使用上・保管上の注意や装着方法について記されているが、使用時の破損や脱落を防ぐための注意点の記載は不十分で、初めて男性用コンドームを使用する者にとっては十分な内容であるとは言えない。実際に、大学生を対象とした調査において、男性用コンドームの管理方法や装着の手技に関して十分な知識を有している若者は少ない現状が明らかになっている(亀崎 et al., 2012)。

岡崎, 池上, 高田, & 上村(2005)の研究では高校生の多くが医療従事者等の専門職から男性用コンドームの特徴や使用方法等について知りたいと考えていることが明らかになり、性行動の開始時期にある者たちは信頼できる情報源から発信される適切な情報を求めていることが示されている。高等学校においては外部講師による講演会を実施している学校も多いが、継続的な教育は保健体育の授業に依存している傾向が現状であり、スポーツの専門家である保健体育科の教員は保健教育に必ずしも積極的でない場合も多い(富山, 2015)。また、教諭らは性教育を進めるにあたり、生徒らの発達段階の違いや知識の個人差を強く感じており、性教育を教授することに躊躇している(齊藤, 二川, 松井, 岡本, & 永山, 2015)。こ

のような現状を鑑み、性教育の授業以外でも若者が必要な時に正しい情報を入手できる環境を整える必要があると考えた。

しかしながら、男性用コンドームの適切な使用方法を示した媒体に関する既存研究は国内に存在しておらず、若者にとって有用な媒体の存在は明らかではない。そこで、性行動開始期にある若者を対象に、具体的な男性用コンドームの使用方法に関するリーフレットを作成することで若者の知識・技術の向上が期待できると考え、15歳～29歳のAYA世代の男女が適切に男性用コンドームを装着できるようにするためのリーフレットを開発することを本研究の目的とする。

II. 研究の目的

本研究の目的はAYA世代の男女が適切な男性用コンドーム装着手技を理解できるようにするためのリーフレットの開発である。

III. 研究の意義

望まない妊娠や性感染症を予防する啓発活動に、開発したリーフレットを利用することができる。リーフレットを用いることで性行動が活発な時期の男女が正しい男性用コンドームの装着手技を身に付け、男性用コンドーム使用時に避妊・性感染症予防効果に影響を与えるような失敗を減らすことが期待できる。

IV. 用語の操作的定義

- ・性交：異性間もしくは同性間での性的な行為。性器同士の結合のみでなく、オーラルセックスも含む。
- ・男性用コンドーム：一般に、“コンドーム”と呼ばれ、避妊もしくは数種類の性感染症予防のために、性交の際に男性器に装着して使用する。コンドームには女性用コンドームも存在するため、本論文においては男性用コンドームと記す。
- ・AYA世代：Adolescent and Young Adult. 思春期と若年成人の略称であり、15歳～29歳の若者を指す。

第2章 文献検討

I. 日本における避妊の現状

現在の日本では避妊を実施する男女の 85.5%が避妊法として男性用コンドームを挙げている(“家族と健康”2015)。しかし、人工妊娠中絶実施者を対象とした先行研究において、望まない妊娠をしたと思われる際の避妊法として男性用コンドームを使用したものの失敗したと答えた者が既婚女性で 52.7%、未婚女性で 40.8%存在している(木村 & 菅, 2001)。また、別の研究では緊急避妊薬の処方を希望して受診した者のうち 68.8%が男性用コンドームの脱落・破損等により緊急避妊が必要な状況に陥っているとされている(北村, 2002)。つまり、男性用コンドームを使用しているにもかかわらず、それによる避妊効果を十分に得られていない現状がある。

厚生労働省の統計によると平成 26 年度の日本国内での人工妊娠中絶実施件数は 181,905 件で過去最低を記録しているものの、わが国の女性 13.2%は人工妊娠中絶を経験しており、そのうち 25.9%は反復中絶経験者であることが明らかになっている(“家族と健康”2015)。人工妊娠中絶は母体保護法に定められた適応条件下では女性の権利として認められているものである。しかし、人工妊娠中絶手術実施に伴い出血や子宮穿孔などの合併症が生じる恐れや、次回妊娠時の子宮破裂のリスクを高めるなど、女性の身体へ及ぼす影響は大きい(池ノ上, 鈴木, 高山, 豊田, 廣井, & 八重, 2008)。また中絶を決めた際の女性の気持ちとして、「胎児に対して申し訳ない気持ち」、「自分を責める気持ち」等が上げられており(“家族と健康”2015)、望まない妊娠による人工妊娠中絶の実施は女性の心身共への負担が大きいことがわかる。

経口避妊薬や子宮内避妊用具等を使用すれば、男性用コンドームより避妊失敗率を下げることは可能である。しかし、これらを使用するには受診が必要であり、手間と経済的負担から性行動開始期の若者たちにとってはハードルの高い方法であると言える。また、これらの方法では性感染症を防ぐことはできないため、男性用コンドームの併用は必要である。つまり、男性用コンドームを正しく使用するための知識・技術は性交を行う以上誰もが習得すべきものである。そして、避妊方法として男性用コンドームが主流である現在の日本においては、正しい使用方法を習得することが望まない妊娠を減少させることに繋がると考えられる。

II. 日本における性感染症の動向と予防行動の現状

わが国において現在発生動向が調査されている性感染症は梅毒・HIV/AIDS・性器クラミジア感染症・淋菌感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマの 6 疾患である。感染予防には性交時の男性用コンドーム使用が有効である。梅毒や尖圭コンジローマ、性器ヘルペスウイルスなどは男性用コンドームの使用で必ずしも予防できるものではないものの、感染のリスクを減少させることはできる。

平成 26 年度の報告数は性器クラミジア感染症が 24,960 件と最多で、次いで淋菌感染症(9,805 件)、性器ヘルペスウイルス(8,653 件)、尖圭コンジローマ(5,687 件)、梅毒(1,683 件)、HIV/AIDS(1,546 件)の順であった(公益社団法人エイズ予防財団, 2014; 厚生労働省, 2015)。

性器クラミジア感染症・淋菌感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマの患者数は近年ほぼ横ばいで経過している。しかしながら、あくまで有症患者のみの報告であること、淋菌感染症以外は咽頭や結膜への感染者数は報告に入れられていないこと、各年齢の人口構成の変化が反映されていることを加味する必要がある(小野寺, 2012; 山岸 & 多田, 2014)、実際の感染者数は報告より多いことが予想される。さらに、異性との交流を求めない若者が増加していることもあるため、性感染症の予防・啓発活動が功を奏し、患者数増加に歯止めがかかったと安易にとらえることはできない(小野寺, 2012)。淋菌感染症に関しては、性器以外に咽頭や結膜への感染も定点報告への届け出のために必要な検査所見に含まれている。性器の淋菌感染者の内、10~30%に咽頭への感染も見られ、咽頭が感染蔓延の温床となっていると考えられる(小野寺, 2012)。

HIV 感染者の報告数は国内で報告が開始されて以降増加が続いていたが、2008 年をピークに横ばいとなっている。一方、AIDS を発症して報告される患者数は年々増加しており、潜在的な感染者の増加が懸念されている。感染者の性別は男性が 90%以上を占め、その約 90%が性的接触であり、その 70%が同性間での接触である(山岸 & 多田, 2014)。

梅毒は 2011 年から増加の一途を辿っており、2014 年の報告数は 2010 年の倍以上となっている(厚生労働省, 2015)。梅毒患者の 70%以上が男性であり、その感染経路は 86%が性的接触である。このうち同性間性的接触による感染の報告数が急増してきており、梅毒全体の増加の主な原因となっている(山岸 & 多田, 2014)。

つまり、避妊の必要性がない男性間同士の性的接触の際に適切に男性用コンドームが使用されず、梅毒感染者と HIV 感染者増加の原因となっていると考えられる。また、女性間での性的接触についての研究でも「男性用コンドームやフィルム・ゴムを使う」などの体液

と粘膜との直接的接触を少なくする行動をいつもとっている人は7.6%と少数であり、男女ともに同性間での性感染症予防行動実施率の向上が必要である(藤井, 2010)。更に異性間での性的接触においても避妊の必要がないオーラルセックスの際、予防策がとられず咽頭への感染が生じていると考える。性交経験のある一般女性のうち、オーラルセックスを行わない、あるいは行ったことがないという女性は9.6%に過ぎず、オーラルセックスが、性交において一般的な行為として定着しているため(三嶋, 玉舎, 田中, & 渡邊, 2006)、オーラルセックス時の感染予防策は重要である。

異性間・同性間を問わず、避妊の必要がない場合でも性感染症予防のために、男性用コンドームの適切な使用が必要であるという認識を高めていく必要がある。

III. AYA 世代の男性用コンドーム使用に関する実態

第6回青少年の性行動全国調査報告において、避妊方法として男性用コンドームを挙げる者は大学生男子で100%、大学生女子では96.5%と若者の間でも男性用コンドームは一般的な避妊方法である(財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会, 2007b)。しかしながら、男性用コンドームの管理方法や装着の手技に関して十分な知識を有している若者は少ないのが現状である(亀崎 et al., 2012)。また男性用コンドームを使用する大学生の内、使用理由として避妊だけでなく性感染症予防まで挙げる者は少なく(大石, 前田, 鶴田, 藤井, & 恵美須, 2006)、明確な目的意識と正しい装着方法に関する知識の不足により、避妊・性感染症予防効果を十分に得られない現状があると考えられる。

大学生・高校生を対象とした研究では、避妊に関する情報の収集源として学校・教科書が一番に挙げられている(池上 et al., 2009; 亀崎 et al., 2012)。学校での教育内容は文部科学省学習指導要領に基づいて決定され、現行の指導要領では中学校保健体育編において「エイズ及び性感染症の予防」の項目で男性用コンドームについて触れられている(文部科学省学, 2008)。しかし、その内容は「(エイズ感染予防に)コンドームを使うことなどが有効であることにも触れるようにする」というもので、具体的な使用方法を教えることは定められておらず、生徒がどの程度までの情報に恵まれるかは学校次第である。学校・教科書に次ぐ情報源として友人やマンガ・雑誌など信頼性の乏しい情報源が挙げられており(池上 et al. 2009; 亀崎 et al., 2012)、学校で学習の機会がなかった場合には、若者たちは根拠のない情報を頼りに危険な性行動をとっている可能性が高い。それゆえ、男性用コンドームの使用に関して十分な知識を有している若者が少ないのではないかと考えられる。

IV. 安全な性行動を促進するための介入方法

正しく男性用コンドームを使用するためには、管理や使用方法に関して適切な情報を得ることが重要なのは言うまでもない。しかし性教育を含む健康教育の領域において、知識量と健康的行動の間に関連はなく、知識注入型の教育だけでは予防行動の促進は図れないことが明らかになっている(尼崎 & 清水, 2008; 岩室, 2015)。一方、自己効力感が男性用コンドームの使用を含む、安全な性行動と関連しているとされており(尼崎 & 森, 2011)、「タイミングを逃さずコンドームをつけることができる」と考えている人ほど男性用コンドームの使用率が高いという研究結果からも(大石 et al., 2006)、状況に左右されずに男性用コンドームを使用することに対する自己効力感を高めることの必要性が示唆されている。

自己効力感とはバンデュラ(1982)が、提唱した社会的学習理論の中で紹介されたものである。人間の行動を決定する先行要因にはある行動がどのような結果を生み出すかという予期である「結果予期」と、ある行動をどの程度うまくできるかという予期である「効力予期」の2つがある。この「効力予期」、つまりある行動をうまくできそうであると感じることが自己効力感である。

避妊のための理論に基づく介入のランダム化比較試験のシステマティックレビュー(Lopez, Tolley, Grimes, Chen, & Stockton, 2013)では、社会的学習理論をもとに介入した研究は17研究のうち7研究あり、そのうち5研究においてプライマリーアウトカムである、計画外の妊娠の有無や、避妊の継続等が対照群より有意に好ましい結果となった。社会的学習理論以外では Information–Motivation–Behavioral Skills model や Trans theoretical model、health belief model 等を基にした研究が組み入れられていたが、好ましい行動変容の結果は得られなかった。これは社会的学習理論の有効性を明らかにし、先記の自己効力感が安全な性行動と関連しているという結果をより支持するものである。このことから、男性用コンドーム使用に対する「効力予期(自己効力感)」と「結果予期」を高めることで正しい男性用コンドーム使用を促進することができると思う。

バンデュラ(1982)は自己効力感を高めるための要件として、遂行行動の達成、代理的体験、言語的説得、情動的喚起を挙げている。このうちの一つである代理的体験はモデルの成功体験を通して自己効力感を高める現象であり、リーフレット作成にあたって活用できると考える。また、IMB model を使用した工藤(2013)の研究では HIV 感染や中絶がどのような影響を与えるか伝え、HIV 陽性患者からのメッセージの提示によって身近さを認識させた

ことが自己効力感を高めたとされている。実際の経験者からのメッセージを提供することで身近さを感じさせるという手法もリーフレットで応用可能である。

男性用コンドームの正しい使用により得られるメリットを明確に提示することで「結果予期」を、身近さやモデルの成功体験を提示することで「効力予期」を高め、これにより AYA 世代の若者が、性交時に正しく男性用コンドームを使用することを促進できると考える。

第3章 研究方法

I. 研究デザイン

本研究は AYA 世代の男女が適切に男性用コンドームを装着できるようにするためのリーフレットの開発研究である。

II. 研究の手順

本研究は以下の手順で進めた。

第 1 段階：質問紙による 20 代の男女の男性用コンドーム使用時の実態調査

1. 調査目的

20 代男女が男性用コンドームを使用した性交の際に生じた避妊・性感染症予防に影響を与えるような失敗体験、もしくは今後の使用を考えた際に生じる困難感を明らかにすることを目的とした。

この実態調査により得られた結果をリーフレットに体験談として記載することで、研究協力者が読者にとって身近なモデルとなり、最終的に読者が代理体験を通して自己効力感を高めることをねらいとした。

2. 調査対象

研究の趣旨に賛同し、同意を得られた 20 代の男女、計 16 名に回答を依頼し 15 名から回答を得た。開発するリーフレットの対象は 10 代後半も含む AYA 世代であるが、調査では性体験がより身近になり、成熟度も増している 20 代を対象とすることとした。

男性用コンドームの使用に関して専門的教育を受けている可能性のある医療従事者または医療系学部の学生は除外した。

3. データ収集方法

研究協力者は機縁法でリクルートした。調査対象基準に合致する者に、研究の趣旨を記した研究説明書(資料 1)、無記名自記式質問紙(資料 2-1,2-2) を返信用封筒とともに直接手渡し、あるいは知人を通して手渡しした。遠方の協力者には本人の許可を得て郵送した。質問紙への回答と返送をもって、第 1 段階の研究への同意とした。

第 1 段階の研究協力者のうち同意の得られた者には、リーフレットの評価段階(第 3

段階)において作成したリーフレットと評価質問紙を郵送し第 3 段階の研究への協力依頼を行うため、上記資料(資料 1,2-1,2-2)に加えて、リーフレットと評価質問紙の郵送時に必要となる氏名及び住所を記載する用紙(資料 3)と資料 3 専用の返信用封筒も同封した。

機縁法でのリクルートに際して、研究協力者のタイプに偏りが生じないように、研究者の属するいくつかのコミュニティ(中学校・高等学校・大学・大学院)を使用しリクルートした。また、機縁法でのリクルートでは研究参加への強制力が働きやすいことを研究者は強く認識し、研究協力を依頼する際には研究への協力は自由意志であることを十分説明した。

4. データ収集期間

平成 27 年 10 月～11 月

5. データ分析方法

量的データは単純集計を行った。質的データに関しては、研究協力者が実際に遭遇した男性用コンドーム使用時の失敗体験を抽出した。

第 2 段階：試作版リーフレットの作成

男性用コンドームの適切な装着手技を中心的内容とした試作版リーフレットを作成した。第 1 段階で得た 20 代男女の男性用コンドーム使用時の失敗例や困難感の例を記載することで、読者にとって身近なモデルの体験を提示し、身近さをもって読むことができる内容とした。

第 3 段階：評価者によるリーフレットの評価

試作版リーフレットの作成後、洗練のために評価を行った。

1. 評価者

以下の約 17 名を評価者とした。

- 1) 第 1 段階の研究協力者から引き続き協力を申し出た者 10 名
- 2) 産婦人科医師 1 名
- 3) 泌尿器科医師 1 名

- 4) NPO 法人での性教育活動従事者 1 名
- 5) 男性用コンドームを販売している薬局の販売員 1 名
- 6) 母子保健に従事する保健師 1 名
- 7) 養護教諭 1 名
- 8) 助産師 1 名

2. データ収集方法

評価者①は第 1 段階の研究協力者のうち、継続協力の意思を表明した者に対し、研究の趣旨を文書(資料 4)で再度説明した。同封の試作版リーフレットに関する記名自記式質問紙(資料 5)への回答をもって研究協力の同意とした。②～⑦の研究協力者も機縁法でリクルートし、研究の趣旨を文書(資料 4) で説明し、記名自記式質問紙(資料 6)への回答をもって同意とした。

質問紙への回答内容に関して、確認やより詳細なデータが必要な場合は協力者の同意を得て、メールもしくは電話等で追加のデータ収集を行った。研究への参加を取りやめる際は同意撤回書(資料 7) の提出をもって同意撤回とした。

3. データ収集期間

平成 27 年 11 月

4. 評価方法

量的データは単純集計を行い、リーフレットの内容やデザイン等の満足度を分析した。質的データではその評価の理由と改善方法を抽出した。

第 4 段階：完成版リーフレットの作成

評価に基づいて試作版リーフレットの内容を改善し、完成版リーフレットを作成した。また、リーフレットの読者が代理体験を通して自己効力感を高めるために第 3 段階の調査で得た 20 代の研究協力者(評価者①)のリーフレットに対する感想を記載した。

Ⅲ. 倫理的配慮

研究の全過程は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を順守し人権擁護に配慮

した。研究協力前に対象者自身が研究趣旨に関する協力依頼書(資料 1,4)、を読み、同意をした場合のみ自記式で回答し、調査票を郵送で研究者に送付することとした。以上の回答の回収をもって、本研究調査への同意を得たものと考えた。以下内容を協力依頼文書(資料 1, 資料 4) に明記した。

1. 本研究への参加は研究対象者の自由意思により決定される。また一旦同意した後であっても、いつでもそれを撤回することが出来る。
2. 記名自記式質問紙の分析の過程では、個人名を記号化し匿名化を図る。記号と個人の対応表を作成し、対応表はデータとは別の鍵のかかるロッカーで保存する。
3. 得られたデータは、研究目的以外に使用しない。
4. 研究終了後、本研究で集めたデータは最低 5 年間保存した後、一切のデータを復元不可能な状態に消去、またはシュレッダーなどで細かく裁断し破棄する。
5. 本研究を修士論文としてまとめた後、学会、論文等外部に発表する際も個人が特定されないようプライバシーを保護する。
6. また解析の段階でパソコンを使用する際には研究者本人のみがアクセスできるようパスワードの管理を徹底する。
7. 本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けてから実施した。(承認番号：15-048)
8. 本研究に参加することで研究協力者が直接得る利益は少ないが、AYA 世代の男女が正しく男性用コンドームを使用するための研究に貢献できる。
9. 質問紙への回答に際し、約 10～30 分の時間的拘束が生じる。

第4章 結果

I. 第1段階：質問紙による20代の男女の男性用コンドーム使用時の実態調査

1. 協力者の背景

研究協力の内諾を得た20代の男女16名に質問紙を配布し、女性7名と男性8名の計15名より回答を得た(回収率93%)。15名全員が性交経験を有し、男性用コンドームの使用経験がある者が14名でそのうち64%にあたる9名が避妊や性感染症予防効果に影響を与えると思われる失敗体験を有していた(表1)。失敗した内容は複数選択可で“脱落”が最も多く選択された。その他の1名は“痛みを感じた”ことを失敗体験として挙げており、それ自体は避妊・性感染症予防効果に影響を与えるものではない。しかし、後述するが、対処として男性用コンドームを使用しないという行動をとっており、これにより結果的に避妊・感染症予防行動がとれなくなったため、失敗として扱うこととした。

2. 失敗時の感情

脱落や破損等の失敗が生じた際にどのような感情を持ったか、13項目から感じたものすべてを選択してもらった(表2)。“不安”が第1位で77%にあたる7名が感じており、次いで“焦り”であった。“絶望・何も感じなかった・その他”を選択した者はいなかった。

女性は5名全員が“不安”を感じていたが、男性は“不安”を感じたのは50%(2名)と性差が見られた。しかしながら割合に差はみられるものの男女ともに半数以上が“不安”と“焦り”は感じていた。それ以外の感情では女性では“困惑”と“緊張”、男性では“恐怖”と“罪悪感”を感じたと回答した者が半数以上を占めた。

また、1人あたりが選択した感情の数の平均は女性では4項目であり、男性では3項目と、女性のほうが感じている感情の幅が広い傾向が見られた。

表 1. コンドーム使用時の失敗体験の有無 (N=14)

失敗体験あり	9 (M=4 名 F=5 名)	
	脱落	5
失敗した内容 (複数回答可 N=9)	破損	3
	漏れ	2
	その他	1
失敗体験なし	5(M=4 名 F=1 名)	

表 2. 失敗時の感情 (複数回答可)

	女性 (n=5)	男性 (n=4)	合計 (n=9)
不安	5	2	7
焦り	4	2	6
困惑	3	1	4
緊張	3	0	3
恐怖	1	2	3
罪悪感	1	2	3
驚き	1	1	2
後悔	0	1	1
羞恥心	0	1	1
怒り	1	0	1
悲しみ	1	0	1
1 人当りの平均選択数	4	3	3.5

3. 失敗時の思考

失敗が生じた際に思考した内容について 7 項目から考えたことすべてを選択してもらった(表 3)。

女性 1 名を除く全員が妊娠のリスクについて考えていた。この 1 名は失敗内容が“痛みを感じた”というものであり、避妊効果に影響を与えるものではなかったため、破損や脱落等の精液が漏れる恐れのある失敗を経験した全員が妊娠のリスクについて考えていた。一方、性感染症のリスクについて考えていたのは男性 1 名のみであった。今回の研究では性交渉の相手との関係性を問わなかったため、失敗体験が生じた際の相手は感染のリスクが著しく低い相手だった可能性も考えられる。しかし、基本的に特定のパートナーであっても性感染症のリスクは性交を行う以上生じるものであるため、妊娠のリスク認識に比較して性感染症のリスク認識は低いと言える。

また、男性の 75%(3 名)が失敗の原因について思考していたのに対し、女性では原因について考えたのは 40%(2 名)と半数に満たなかった。一方、対処行動をとらなければならぬと女性の 80%(4 名)が考えていたのに対し、男性では 20%(1 名)しか思考をしていなかった。男性は失敗が起きてしまった理由について過去を振り返り、女性は失敗に対する対応つまり今後について思考している傾向が見られた。更に、女性の 40%(2 名)が自分の生活が変化するかもしれないと考えていたのに対し、男性ではそのように考えた者は誰もいなかった。妊娠のリスクの認識は男女で性差はなかったのに対し、妊娠による自身の生活への影響については男女の意識の差が示された。

4. 思い当たる失敗原因

失敗の原因として思い当たる事柄に関して、10 項目からあてはまるものすべてを選択してもらった(表 4)。“根元まで装着していなかった”と回答した者が 44%にあたる 4 名で最も多かった。次いで、“サイズの不備”と“原因不明”が同率で 2 番目に多かった。“原因不明”を選択したのはすべて女性で、男性は全員がなんらかの思い当たる原因を有していた。前項で記したように失敗時に原因について思考していたのは女性より男性のほうが多かったことも踏まえると、男性用コンドームの装着に関して女性が積極的に関与せず相手に任せている可能性が高いことが示唆された。

表 3. 失敗時の思考内容 (複数回答可)

	女性 (n=5)	男性 (n=4)	合計 (n=9)
妊娠する/させるかもしれない	4	4	8
性感染症をうつす/うつされるかもしれない	0	1	1
何が原因だったのか	2	3	5
対処行動を取らなければならない	4	1	5
相手との関係性が変化するかもしれない	0	0	0
自分の生活が変化するかもしれない	2	0	2

表 4. 思い当たる失敗原因 (複数選択可)

	女性 (n=5)	男性 (n=4)	合計 (n=9)
根元まで装着していなかった	2	2	4
サイズの不備	2	1	3
原因不明	3	0	3
射精後すぐに抜かなかった	0	2	2
空気が入っていた	1	1	2
その他	0	1	1
裏表を間違えた	1	0	1
勃起前に装着した	0	0	0
爪や歯など鋭利なもので傷つけた	0	0	0
保存方法の不備	0	0	0

5. 失敗後の対処行動

失敗後の対処行動について、緊急避妊法・性感染症検査・何もしなかった・その他の4項目からあてはまるものすべてを選択してもらった。“緊急避妊法をとった、あるいは相手にとってもらった”と回答した者が6名で最も多かった。2名は“何もしなかった”を選択しており、対処行動はとっていなかった。“性感染症検査”を受けた者は1名のみだった。また“痛みを感じた”と回答していた1名は“その他”を選択しており、その内容は“コンドームをつけなくなった”であった。

6. 失敗時の状況

自由記載欄の失敗時の状況を表5に示す。「相手に装着を任せたので、詳細は分からず(女性)」や「相手が射精した事を言わずに挿入し続けた(女性)」など、女性は相手の男性用コンドーム使用方法に身をゆだねている現状が明らかになった。また、「モタモタしてムードを壊したくない(男性)」や「(失敗が起きた後に)相手の尊厳を傷つけるのが嫌で、言及はできず(女性)」など男女共に相手に気を遣うがゆえに、焦って装着を失敗したり、失敗した原因などについて話し合えていなかったりという現状があった。

加えて、「ゴムのサイズが小さかったから(脱落した)」と、正しい知識と行動があれば予防可能な失敗や、「(男性用コンドームを使用すると)イタミが強く、つけない方がいい」と適切ではない対処行動をとってしまった者、「(失敗後)いつもずれることのない生理が数日遅れ、焦った」と十分な対処を取らなかったが故に焦りを感じた体験等が記述された。

男性用コンドームの装着手技そのものに加え、適切な男性用コンドームの選択方法やトラブルが生じた際の対処方法に関する情報提供の必要性、更にパートナーと男性用コンドーム使用に関してコミュニケーションを図れる関係性を構築することの重要性が示唆された。

表 5. 失敗時の状況（自由記載欄）

女性	<ul style="list-style-type: none">・相手に装着を任せたので、詳細は分からず。途中で、「あ、外れちゃった」と言われて気が付いた。相手の尊厳を傷つけるのが嫌で、言及はできず、再度新しいものをつけてもらった。いつもずれることのない生理が数日遅れ、焦った。・彼が抜いた際にコンドームの上部が切れて、無くなっていた。上部は床に落ちているのが見つかったが、タイミングは分からなかったため、ピルを飲んだ。(元旦でも開院しているところがあって良かったです・・・。)やはり生理が来るまで不安でした。・コンドームをつけることは大切だと実感していたか、痛みが強く、つけない方がいいと感じた。射精のタイミングで外に出せば良いと思った。・相手が射精した事を言わずに挿入し続けたためコンドームがずれて精液がもれた。不安で生理が遅れ妊娠検査薬を使った。子供ができれば人生変わってしまうんだなと不安になった。・確実に漏れたかはわからなかったが、なんとなく漏れた気がした。不安だったので、一応病院へ行きアフターピルをもらい飲んだ。
男性	<ul style="list-style-type: none">・ゴムのサイズが小さかったからか、装着が不完全で膣内に残ってしまった。すぐ気づいて付け直したので、そこまで深くは考えなかった。・おそらく空気を抜けていなかったためにコンドームが破損してしまい、精液が漏れてしまいました。申し訳ないという気持ちでいっぱいになりました。すぐにクリニックへ行き、緊急回避ピルをいただいたのですが、100%の効力があるわけではないので不安でした。・モタモタしてムードを壊したくないという気持ちもあってか、前戯でペニスに塗布したローションを十分に拭き取らず、コンドームを装着し挿入した。射精後少し余韻に浸ってからペニスを抜くと、膣からコンドームの輪(装着時、ペニスの根本にあたる部分)が出ているのが見えてコンドームが外れたことに気づき、あわてて引っ張り出した。輪がすべて膣から出たという確証は持てず、精子が膣内に残った可能性があるためすぐ膣を洗浄し、相手は緊急避妊用ピルを服用して対応した。緊急避妊用ピルの副作用などの肉体的負担に加え、一度失敗した不安や、その後神経質にならざるを得ない精神的な負担を相手にかけてしまったと思い反省した。また、自分の信頼が揺らぐかもしれないという不安も感じた。・使ってたらず、だんだん抜けてきた。

7. 第1段階調査のまとめ

第1段階の調査より、破損や脱落などの失敗時には男女とも妊娠可能性は認識しているものの、既存研究同様に性感染症への意識は低くそのリスクの認識は薄いことが明らかになった(福本 & 森永, 2005)。

また、妊娠に伴い生じる生活の変化等のリスクについては女性のほうが重大にとらえる傾向があり、男性よりも女性のほうがよりネガティブな感情を多く感じていた。しかしながら、そのリスクを軽減するための男性用コンドームの使用方法に関しては、女性は主体的には関与せず相手に任せている傾向があり、これは先行研究でも明らかになっている結果と類似していた(山口, 小笠原, & 堀田, 2007)。

男性用コンドームの使用に女性が主体的に関与せず、男性に一任されていることが「モタモタしてムードを壊したくない(男性)」や、「(失敗が起きた後に)相手の尊厳を傷つけるのが嫌で、言及はできず(女性)」などパートナー間でのコミュニケーションが十分でない状況を生じさせる一因であると考えられる。コミュニケーションの不足は男性用コンドームの適切な使用を妨げる要因となるだけでなく、健全なパートナーシップを形成する上でも障害となり得る。

性交に伴う身体的リスクとして、妊娠は女性のみが生じるものであるが性感染症は男女双方にリスクがあること、また妊娠も心理・社会・経済的には男女双方に生じるリスクであるということを AYA 世代の男女が十分認識し、避妊および性感染症予防は双方の責任の下で行われるものであると認識できるような働きかけが必要である。

Ⅱ．第２段階：試作版リーフレットの作成

第１段階の結果を参考に、試作版リーフレットを作成した。導入部分では 20 代男女の失敗体験の保有率を示し、失敗体験をする可能性の高さを示した。また、失敗談に対する対処方法や改善策という形で、装着方法以外にも男性用コンドーム使用に関する情報を提供した。工夫した点として、対象読者である 15～20 歳代の男女が手に取りやすいように B5 版サイズに両面印刷で 8 つ折りとし、コンパクトなサイズ感かつ開かなければ中身が見えないようにした。また、男性用コンドームの使用は男性に任せきりである女性が多いことを考え、互いが主体的に知識を得て実践できるよう男女ともに受け入れやすいような中性的なデザインを心がけた。リーフレットの目標・主要項目は以下の通りである。

1. リーフレットの目標

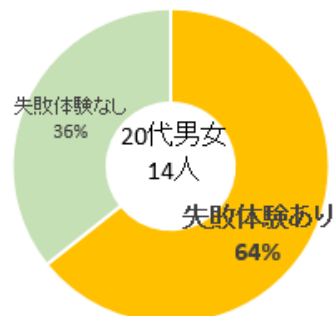
- 1) 男性用コンドームの適切な使用方法を理解できる。
- 2) 男性用コンドームを適切な方法で使用しようと考えることができる。

2. リーフレットの主要項目

- 1) 男性用コンドーム使用時の失敗体験保有率（コンドーム正しく使える?）
- 2) 失敗例に対する対応・予防方法（みんなのトラブル解決）
- 3) 適切な男性用コンドームの使用法（装着方法）
- 4) 関連サイトへのリンクの提示

コンドーム正しく使える？

Q. コンドームを使っていて、破損や脱落などの失敗したことはありますか？



Q. その時の状況は？

「おそらく空気を抜けていなかったためにコンドームが破損してしまい、精液が漏れてしまいました。(中略)緊急避妊ピルをいたいたのですが、100%の効力があるわけではないので不安でした。(男性)」

「相手が射精した事を言わずに挿入し続けたためコンドームがずれて精液がもれた。不安で生理が遅れ妊娠検査薬を使った。子供ができたなら人生変わってしまうんだと不安になった。(女性)」

過半数の人が失敗し、不安に思ったことがあるようです。コンドームの正しい使用方法を理解し、適切に取り扱うことでこのような失敗が起きる可能性を減らすことができます。

このリーフレットでは正しいコンドームの使い方を説明します。

みんなのトラブル解決…20代みんなの体験より



「ゴムのサイズが合わなかったからか、装着が不完全で膣内に残ってしまった。」



「ペニスの太さ÷3.14＝直径」適切なサイズのコンドームを！

コンドームのサイズ＝ペニスの直径です。メーカーにより若干異なりますがスタンダードなサイズのは直径33～36mmです。スタンダードなもので緩かったり、きつすぎたりする場合は自分に合うサイズのものを探してみましょう。

「痛みが強くてつけない方がいいと感じた。」



「痛くない方法を探してみよう！」

潤い不足やラテックスアレルギーの可能性あります。潤い不足の場合は潤滑剤の使用で軽減します。右の表を参考に適切なものを選びましょう。※右記以外に、オイルベースのものもありますが、ラテックスコンドームは破損しやすくなるので要注意です。

ラテックスアレルギーの場合は、ポリウレタン製コンドームの使用でアレルギー反応を防ぐことができます。それでも改善しない場合や、膣の奥に痛みを感じる場合は炎症や子宮内膜症等の可能性もあるので婦人科の受診をお勧めします。



「相手に装着を任せただけで、詳細は分からず途中で、『あ、外れちゃった』と言われて気が付いた。(中略)いつもずれることのない生理が数日遅れ、焦った。」



緊急避妊ピル・性感染症検査を！

性交後 72 時間以内に婦人科を受診し、緊急避妊薬(アフターピル)を処方してもらうことができます。保険は効かず、病院・方法により費用は異なり 5000 円～15000 円前後です。100%の効果があるわけではありませんが、無防備な性交後の緊急避妊手段です。

また、妊娠だけでなく性感染症についても考える必要があります。性感染症は罹っていても自覚症状がでない場合も多く、気付かないまま生殖機能にダメージを受け、男女共に不妊症の原因になることもあります。保健所・保健センターでは匿名・無料で HIV 検査と数種類の性感染症検査を行っているところがあります。時間が決まっているので調べてから行きましょう。

潤滑剤の選び方

成分	ポリアクリル酸 ナトリウム	グリセリン
感触	粘度が高く トロトロ	粘度は低く サラサラ
用途	安価でボディマッ サージ等に最適。 膣内に入ると膣内 の水分を吸収して より痛みを感じる 可能性がある。炎 症を引き起こす恐 れもある。	潤滑剤として 膣内への 使用に適す る。やや高 価だが少量 で十分な効 果がある。



～あなたと大切な人を守るために～

CONDOMS

HOW TO USE

性についてもっと知りたい方は

PILCON HAPPY LOVE GUIDE



ピルコン&Link-R






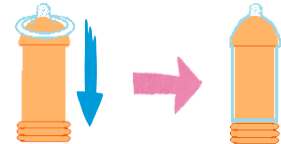
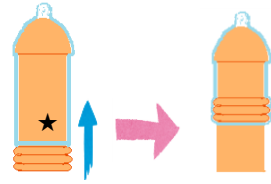
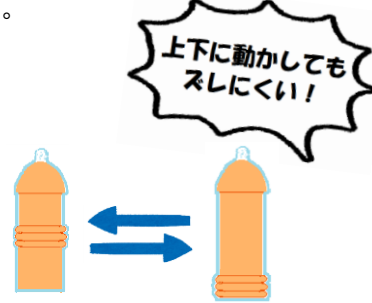

コンドームの正しい付け方

このリーフレットは 20 代の研究協力者 15 名と性に関わる 7 名の専門家の皆様にご協力いただき作成しております。

作成：聖路加国際大学大学院修士課程
三上 文香 14MW014@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学
子どもと家族の看護領域教授
森 明子

2015 年 11 月作成

<p>3. 試作版リーフレット</p> <p>● ペニフ 選び</p> <p>● ラテ ポリ</p> <p>● ハー</p> <p>こ合うコンドームを</p> <p>アレルギーの人は のものを選びます。</p> <p>に入れて持ち運びま す。化粧ポーチや財布はコンドーム が劣化するので NG！固い名刺入れ などが適切。</p> <p>● コンドームを傷つけない よう、爪は短く切りやす りをかけておきます。</p> 	<p>装着方法</p> <p>①勃起したら挿入前にコンドームをつ けます。射精前から体液と微量の精子 は出ているので射精時のみの使用では ×</p> <p>※性感染症予防の為にオーラルセックス にもコンドームの使用が必要です。</p> <p>②コンドームを袋の中で端に寄せて、袋 を開けきります。爪や袋の切り口で傷 つけないよう注意して取り出します。</p> 	<p>③巻いてある部分の構造 で裏表を確認します。 裏表を間違えると巻き 下ろすことができません。</p>  <p>※一度亀頭に触れたコンドームには精液が 付着している可能性があるため、間違えた 場合は裏返して使うことはせず、新しいコ ンドームを使用してください。</p> <p>④勃起したペニスの包皮を 根本まで手繰り寄せます。</p> 	<p>⑤精液だめの部分を つまみ空気を抜きます。</p>  <p>⑥亀頭にコンドームを密着させ、根本 の包皮の少し上の部分までゆっくり 巻き下ろしていきます。陰毛を巻き込 むと破損の原因となるので巻き込ま ないように注意します。</p> 
<p>⑦手繰り寄せた包皮の上まで巻き下ろ したら、イラストの★の部分を持ちま す。</p> <p>包皮ごとコンドームを先端方向に 動かし、根本の包皮を持ち上げ根本が ピンと張った状態にします。</p> <p>ここがポイント！</p> 	<p>⑧コンドームを再び根本まで巻き下ろ します。</p> <p>⑨こうすることで包皮とコンドームが 一体化し、摩擦により破れたり、抜けて しまったりする可能性が少なくなります。</p> <p>上下に動かしても ズレにくい！</p> 	<p>⑩射精したらすぐに根本を押さえてペ ニスを抜きます。抜くのが遅いとペニ スとコンドームの間から精液が漏れ てしまいます。</p> <p>⑪使用後のコンドームは口を縛って捨 ててください。</p> <p>お互いに相手任せにせず、 一緒に正しい使い方を確認しよう</p>  <p>動画でも装着方法を見ることができます。表 紙裏の QR コードからご参照ください。</p>	<p>協力者コメント</p> <p>2 回目の調査に基づき、 協力者のコメントを掲載予定</p>

Ⅲ. 第3段階：試作版リーフレットの評価 20代研究協力者による評価

第3段階として試作版のリーフレットの評価を質問紙で行った。第1回目の質問紙調査より引き続き研究協力の意思を示した20代の協力者12名と、教育・保健医療分野の職種7名(産婦人科医師・泌尿器科医師・助産師・保健師・養護教諭(高等学校)・ドラッグストア販売員・NPO 法人理事)に試作版リーフレットと評価質問紙(資料 5,6)を郵送した。

1. 20代研究協力者による評価

12名に評価質問紙(資料 5)を配布し、10名より回答を得た(回収率 83%)。回答者は男女各5名で平均年齢は23.7歳であった。以下の1)~6)の項目ごとに1~5の5段階評価で、評価を受けた。数字が小さい方が評価は高い。1,2を選択した者を肯定的評価、3,4,5を選択した者を否定的評価として集計した。

1) 内容の理解しやすさ

リーフレットの主要項目である(1)コンドーム正しく使える?(2)みんなのトラブル解決(3)装着方法の3項目ごとに内容の理解しやすさについて尋ねた(表 6)。

(1)、(3)の項目に関しては全員が「理解しやすい」と回答し、(2)の項目で1名が「理解しにくい」と回答した。自由記載欄の意見から、表現方法の修正や記載内容の追記の必要性が示された。

2) 読みやすさ

読みやすさに関しては(1)表紙(2)コンドーム正しく使える?(3)みんなのトラブル解決(4)装着方法(5)表紙裏面の5項目ごとに尋ねた(表 7)。

(3)の項目で4名、(5)の項目で1名が「読みにくい」と回答した。それ以外の項目は全員が「読みやすい」と回答した。読みにくい理由としては文字数の多さに伴い読みにくさを感じるというものだった。内容を吟味し、情報量を絞る必要性が示された。その他のコメントでは「エピソードがリアルでわかりやすい」と第1段階の結果から引用したデータを記載したことが評価された。

3) 表紙タイトルの適切性

表紙タイトルからリーフレットの内容が理解でき、かつ対象年齢の若者が手に取る

際にできるだけ抵抗を感じないタイトル設定を目指していることを説明し、それを踏まえ現在のタイトルは適切であると考えられるかを尋ねた(表 8)。

8 名が「適切である」とし、「手に取りやすいようにということを考えると無難なデザインだと思う」「スタイリッシュで手に取りやすい」など、手に取る際の抵抗が薄いことを評価するコメントが見られた。2 名は「不適切である」と回答したが、具体的な理由は記載されていなかった。

さらに表紙に関してイラストやレイアウトに関する意見も寄せられた。タイトル以外の部分の表現でより対象年齢の若者が手を伸ばしやすい表紙にするために改善できる部分があることが明らかになった。

表 6. 内容の理解しやすさ (N=10)

項目	肯定的 評価	否定的 評価	コメント
(1)コンドーム正しく使える?	10	0	
(2)みんなのトラブル解決	9	1	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症検査の案内は情報が載っているサイトのリンクがあるといいと思う(厚労省の HIV 検査相談マップとか)性感染症の問題は関心があっても調べるだけでもなかなか一歩が踏み出せないところだと思うのでわかりやすい方法(サイトのリンク)を示す必要があるのではないか。 ・「ペニスの太さ」よりも「ペニスの周径」のほうがより明確になるのではないかと思います。
(3)装着方法	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・オーラルセックスとは?(知らない人もいるかも)

表 7. 読みやすさ (N=10)

項目	肯定的 評価	否定的 評価	コメント
(1)表紙	10	0	
(2)コンドーム正しく使える?	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・円グラフは失敗経験あり/なしの色を、赤/青にして safe/denger 感を出すと分かりやすく目を引きそう。
(3)みんなのトラブル解決	6	4	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が多いので重要なところに線を引くとか色を変えるなどするとメリハリがついてより見やすくなると思う。 ・重要な箇所にアンダーラインを引いたり、大きさ、色を変えて強調するとより見やすい ・少しだけ、文字数が多すぎるように感じてしまいました。でもエピソードがリアルでわかりやすい。
(4)装着方法	10	0	
(5)表紙裏面	9	1	

表 8. タイトルの適切性 (N=10)

肯定的 評価	否定的 評価	コメント
8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一目で「コンドームの使い方に関するリーフレット」だとわからないが、(特に女性にも)手に取りやすいようにということを考えると無難なデザインだと思う。 ・ イラストを風船アートのブードルにする ・ 色づかいとか気を使った方が良い。悪くはないけど、細かい所にも読んでもらいやすいように気を使ってもいいかも。オレンジ=親しみなどの心理学的効果。 ・ スタイリッシュで手に取りやすいと思いました。あえて意見するなら、疑問形で興味をそそらせてみるとかはいかがでしょうか? 「Do you know how to use condoms?」とか。長いですね。

4) 手に取りやすさ

このリーフレットがどこかに設置されていた場合、手に取りやすいかという問いに対し、8名が「手にとりやすい」2名が「手にとりにくい」と回答した。手に取りにくい理由として「倍くらいの大きさのほうが目につきやすい」と、手に取ることに抵抗を感じるというより、小さいので気づきにくいのではとの指摘があった。

また、設置場所ごとの手に取りやすさについても、それぞれどの程度手に取りやすいと考えるか尋ねた(表 9)。

(1)病院・診療所(5)ラブホテル(6)保健所(2)ドラッグストアは、半数以上が「手にとりやすい」と回答した。一方、(3)コンビニエンスストア(4)スーパーマーケットは「手に取りにくい」と回答した者が大半であった。コンビニエンスストアやスーパーマーケットなど、日常生活の場に近い場所ほど、リーフレットを手取ることに抵抗を感じる事が示唆された。また、その他に設置するとよいと考えられる場所として「ディスカウントストア」・「 Condom 自販機」など男性用 Condom を入手する際に利用する場所や、「高校」・「大学」・「書店」など対象年齢の若者が多いと思われる場所が挙げられた。

5) 男性用 Condom の適切な使用に対する必要意識や自信の変化

リーフレットを読んだことで今後男性用 Condom を正しく使用することへの必要意識や自信に変化があったかを尋ねたところ、10 名全員が「変化があった」と回答した(表 10)。

その理由として「今まで知らなかった知識が身についた」「自分の使い方が間違っていたことを認識することができた」など、新たな知識を得たことで今後の使用方法が変化すると考えていた。また、「今まで相手任せであり気にしたことがなかったが(中略)気をつけるべきだと思った」と自らの態度を振り返った者や、『正しいつけ方』って習ったことがなかった」と、自分の知識があいまいであったことを認識した者もいた。さらに「想像していたより多くの方が失敗しており、今後自分も失敗する可能性があるかもしれないと感じた」と、他者の体験を知ることによって今後の自分の行動を考える機会とした者もいた。

表 9. 設置場所ごとの手に取りやすさ (N=10)

評価項目	肯定的 評価	否定的 評価	コメント
病院・診療所	9	1	・サイズが小さいような気がします。倍くらい の大きさの方が目につきやすく、読みやすい のではと思いました。また、そのままの大き さでポケットティッシュに挟むという工夫も 有効だと思いました。
ラブホテル	9	1	
保健所	9	1	
ドラッグストア	7	3	
コンビニエンスストア	2	8	・その他として以下が挙げられた。 ・ディスカウントストア ・コンドーム自販機 ・高校 ・大学 ・書店
スーパーマーケット	1	9	

表 10. 男性用コンドームの適切な使用に対する必要意識や自信の変化の有無 (N=10)

肯定的 評価	否定的 評価	コメント
10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい使用法を確認できた、自分の失敗を省みることができた、コンドームの使用法から性に対する意識までカップルで話し合うきっかけになった。上記いずれもあまり機会のないことなので大変有意義だと感じた。 ・改めて避妊することの重要さを感じました。サイズ選びも大切なんだと改めて感じました。 ・自分の経験のみではわからないことを他の人の意見を読むことで、必要意識につながりました。コンドームの正しい使い方を改めて学ぶ機会は少ないため、リーフレットで学べて自信にもつながると思います。 ・潤滑剤の選び方など、今まで知らなかった知識が身についたと感じたから。 ・想像していたより多くの人が失敗しており、今後自分も失敗する可能性があるかもしれないと感じた。 ・今まで相手任せであまり気にしたことがなかったが、避妊だけのためでなく、性感染症にも気をつけるべきだと思った。 ・正しい装着方法を知り、自分の使い方が間違っていたことを認識することができました。正しい装着方法を知ることで、自らのリスクを低減することができ、パートナーと話し合うきっかけとなりました。 ・そういえば「正しいつけ方」って習ったことがなかった。たまたま初めての方が真摯に教えてくれなかったら、よくわからないままだったかも。ゴムアレルギーのことも知りませんでした。

6) 男性用コンドーム使用に関するパートナーとのコミュニケーションへの影響

リーフレットの存在によって、性交や男性用コンドームの使用に関して、パートナーと話し合いがしやすくなるなどコミュニケーション上の変化や影響があると思うか尋ねたところ、10名全員が「変化があると思う」と回答した(表 11)。

理由としては「相手と話す機会を与えてくれる」と、リーフレットの存在が話をするきっかけとなるというものが多かった。どのようなきっかけとして作用するのかは大きく3つに分けられた。

1 つは相手の理解につながるというものである。「男女の例・感想がそれぞれ書いてあり、お互いの意識・認識を確認したり話し合うきっかけになった」と、体験談として挙げた例が男性・女性双方のものだったことで相手の立場に立って考える機会を作ることができたということが示された。

2 つ目はリーフレットにより自らが知識を得たことで相手との関わり方も変化したというものである。「(今まで)間違った使い方だったため、パートナーと話し合うきっかけとなった」「意識して装着の仕方に注目し(中略)間違っていた場合、指摘できると思う」など、前記の5)で、知識を得たことが今後の男性用コンドームの使用に関して必要意識や自信に影響を与えたことと同様の結果だった。

3 つ目は相手とコミュニケーションをとる際のツールとして活用できるというものだった。「内容がまとまっていて読みやすく口頭だけで説明するよりも伝わりやすく説得力がある」と、単に自分が説明するより媒体があったほうが相手により伝わりやすいとするものや、「話の土台にあげるのに、やっぱり紙があると上げやすい」「いきなり話し出すよりはこういった物があると話しやすい」と、何もない状態では話をするのに抵抗があるが媒体を用いることで抵抗が減るというものだった。

7) 10代後半～20代の男女へのメッセージ

最後に自由記載欄を設け、研究協力者としてリーフレットの読者である10代後半～20代の男女に対してアドバイスやメッセージ等があれば記載してもらった。読者にとって親近感を持てるであろうメッセージが多く寄せられた(表 12)。

表 11. パートナーとのコミュニケーションへの変化や影響の有無 (N=10)

肯定的 評価	否定的 評価	コメント
10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・男女の例や感想がそれぞれ書いてあり、お互いの意識・認識を確認したり話し合うきっかけになった。ただ、私たちはお互いに関心が高い(方だと思う)ので、そうでないカップルにもパートナー同士の話し合いをしやすいすることを目的とするなら、「一緒に読む(見る・考える・話し合う)」ことをもっとススメても良いと思う。 ・お互いに理解することで、お互いの気持ちの理解も深まると思う。 ・より仲が深まる良いきっかけになると思いました。 ・相手と話す機会を与えてくれると思います。なお男性にとってのコンドームの必要性・重要性を載せて頂けるとより良いかと思いました。 ・女性は男性にコンドームの使い方は任している人が多いと思うので、互いに知ることにより正しく使えるのではないかと思います ・使用時に意識して装着の仕方に注目すると思う。間違っていた場合、指摘できると思う。 ・私の場合、間違った使い方だったため、パートナーと話し合うきっかけとなりました。正しい知識を1人でも多くの人を知っていれば、間違いを正す人が多くなるということなので、コミュニケーションも増えていくのではないかと思います。 ・いきなり話し出すよりはこういった物があると話しやすいのではないかと思います。 ・きっかけになるから。また、内容がまとまっていて読みやすく口頭だけで説明するよりも伝わりやすく説得力があるから。 ・話の土台にあげるのに、やっぱり紙があると上げやすいです。ラブホテルや、コンドームの箱の中にあったらいいなーと思いました。

表 12.10 代後半～20 代の男女に対するメッセージ (N=10)

-
- ・個人的にはコンドームは一緒に選ぶのがオススメです！あまりコンドームの話題って自然には出てこないかと思うけれど、一緒に選ぶとなると使い方からコレは良い・悪い・何が気持ちいいという話まで自然に出てくるし、関心を持つきっかけになります！2人のお気に入りのコンドームを見つけると、コンドームを付けるモチベーションが上がってHもより楽しくなると思いますよ！
 - ・コンドームに関するリーフレットは年頃の男女にとっては手に取りにくいものかと思います。恥ずかしい気持ちを抱えながらも、適切な知識を得るための努力として学んでほしいと思います。
 - ・正しいコンドームの装着方法について、学校などでも教わる機会がないと思うので、自分だけでなくまわりの人にも教えてあげられるとより良いと思います。
 - ・子供がほしいのならつけなければいいが、育てる覚悟がないなら、つけたほうがいい。
 - ・自分たちの行動や行うことに責任を持つことを考えなければならぬと感じます。
 - ・何かあった時、責任がとれないような相手ではないか？お互いのために気持ちも身体も大切にしたいパートナーを選び、正しい知識を持って愛し合おう！
 - ・性行為を行うこと自体は悪くありませんが、望まない妊娠をしないための知識がないまま、適当に自分を大切にしない性行為をすることは絶対にしてはいけません。これから人生まだまだ長い道があり、もし今子どもが自分にできたら、どんな影響があるのか想像してほしいと思います。
 - ・コンドームを正しく使ってくれる男性は女性にとって魅力的に見えます！「真摯だなあ」「大切にしてくれてるなあ」と直接響くので、これを機に株を上げてください。
男性に任せきりでしたが(そのほうがかわいらしく見えると思って)、後悔するのは自分だなあと思いました。正しい知識で自分を大切に！
-

2. 教育・保健医療分野の職種による評価

教育・保健医療分野で働く職種の者7名に評価質問紙を配布し、7名より回答を得た(回収率100%)。評価者の職種は助産師、保健師、養護教諭、男性用コンドームを取り扱うドラッグストア販売員、性教育活動を行うNPO法人理事、泌尿器科医、産婦人科医である。

リーフレットの理解しやすさ・読みやすさはリーフレットの項目ごとに1～5の5段階評価で、評価を受けた。数字が小さい方が評価は高い。1,2を選択した者を肯定的評価、3,4,5を選択した者を否定的評価として集計した。記載内容に関しては理解しやすさに加えて誤りや修正が必要な部分があるかも尋ねた。また、リーフレットの最終版が完成した後の活用方法を検討するために、それぞれの勤務先での活用可能性についても尋ねた。

1) 内容の理解しやすさ

リーフレットの主要項目である(1)コンドーム正しく使える?(2)みんなのトラブル解決(3)装着方法の3項目ごとに内容の理解しやすさについて尋ねた(表13)。各項目ともに否定的評価が2名以上存在し、内容や記載方法を吟味する必要性が示された。

2) 記載内容の正確さ

記載内容に不適切な表現や誤った情報があったかどうかを訪ねたところ4名が「あり」と回答した(表14)。メインの項目である装着方法のイラストに関して泌尿器科医より改善の必要性を示された。

3) 読みやすさ

読みやすさに関しては(1)表紙(2)コンドーム正しく使える?(3)みんなのトラブル解決(4)装着方法(5)表紙裏面の5項目ごとに尋ねた(表15)。

文字の多さや文面の硬さが指摘され、20代の協力者による評価同様に内容を吟味し必要最小限の情報量に絞っていく必要性が示唆された。また、人目を気にせず読めるようすべてを広げなくても読める本のような形が好ましいとのコメントがあり、リーフレットの形式自体の見直しの必要性も示された。

表 13. 内容の理解しやすさ (N=7)

項目	肯定的 評価	否定的 評価	コメント
(1)コンドーム 正しく使える?	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンドーム正しく使える?」のアンケート回答者が 14 名と少ない、男女比もわからない。 ・数式は必要ですか?一般的なサイズ 33~36mm でそれほど多くサイズ展開しているわけではないので、それより大きい小さいかわかればよいようにも思います。 ・潤滑剤はいろんな種類があるので必ず用法や使用上の注意を check してコンドームの破損につながらないかを確認すること。 ・トラブルのところは、サイズの選択肢(種類)がスタンダード以外も書いてあると良い。女性側の悩みだというのが何回目かに読んでわかった。顔で性別を示していたのですね。 ・コンドームにはラテックス製とポリウレタン製の 2 種類があることを強調して明示したほうがわかりやすい。 ・注意点(望まない妊娠・感染症予防に視点がおかれすぎて、全体的にパートナーシップがネガティブなイメージで伝わる)が強調されている感じがする。恐さのみが伝わる印象があった。
(2)みんなの トラブル解決	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなのトラブル解決」で膣内にコンドームが残るのは、ゴムのサイズというよりつけ方や外し方の問題が多いのでは?解決策が誰からの情報によるものかわからないため、信頼性に欠けるように思う。膣内でコンドームが外れ取れなくなってしまった際の対処法までは不要?潤滑剤の成分は表示されていないものもあるので「ポリアクリル酸ナトリウム」だけではなく、「非表示」もあったほうがいいのか。潤い不足は潤滑剤だけではなくリラックスやゆっくり時間をかけることでも改善される旨も書いたほうが良いのでは。緊急避妊ができる電話相談窓口(FP ホットライン)病院検索ページが日本家族計画協会の HP 内にあるので、その URL も記載があってもよいと思う。妊娠検査薬がいつから使えるかもよく聞かれるのでその情報もあると良いと思った。その分潤滑剤の選び方はなくてもよいかも。
(3)装着方法	5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・装着方法は、わざわざ動画を見ない人もいるので、手を書いてあると説明のイメージがしやすい。文字だけだと使い慣れない人、初めての人はわかりにくいと思う。 ・女性視点だと、イメージがわきにくい感じがした。

表 14. 修正・改善部分

コメント	
【みんなのトラブル解決】	日本で承認されている緊急避妊ピルはノルレボ錠のみです。5000 円での費用はおそらくヤッペ法だと思われます。ノルレボ錠だと薬価が 10000 円＋消費税になりますので、費用としては 15000 円～の案内が best だと思われます。
【装着方法】	④包皮は根元まで手繰り寄せることはできませんが。冠状溝の下が限界ですよね。陰茎の皮膚へテンションをかけるという意味ですか?④の図の包皮は下に行きすぎ! 冠状溝は俗にカリといいます。男性ならみんな知っていると思います。「カリの下まで根元を手繰り寄せる」という表現の方がしっくりくると思います。あとは陰茎の根元を持って皮膚にテンションをかけながらコンドームを下に巻き下ろすとか)。
【みんなのトラブル解決】	72 時間以内に「受診」ではなく「服用」。
【全体】	不適切ではないが、ネガティブ・マイナスイメージが全体的にある。正しく使うことの前に自らの命やパートナーシップを大切に尊いものとしてほしいという研究者のメッセージがもうすこし伝わるといいのと思いました。

表 15. 読みやすさ (N=7)

項目	肯定的 評価	否定的 評価	コメント
(1)表紙	5	2	・字が多いと思います。細かい内容はネット上で見れるようにしてもいいかも。
(2)コンドーム正しく使える?	4	3	・文字が多く、全体的にやや硬い印象がある。潤滑剤→ローションなど平易な表現のほうが読んでいて苦にならない。
(3)みんなのトラブル解決	5	2	・QR コードだけではなく、HP アドレスも記載したほうが良い
(4)装着方法	5	2	・番号を振ってあるがすべてを広げないと目で追えない。読むシュチュエーションにもよると思うが、センシティブなテーマなので本のようにめくって読めると手の中で納まって読めるので、他の人の目が気にならないと思う。
(5)表紙裏面	6	1	

4) リーフレットの活用

完成版リーフレットの活用方法を検討するために、それぞれの勤務先で活用可能かを尋ねた。2 名が可能、2 名が不可能、3 名が不明と回答した(表 16)。

病院・診療所、保健所、ドラッグストアは各組織の方針や上層部の判断により設置可能な場合と設置不可能な場合に分かれるが、働きかけ次第で設置できる場所もあると考えられた。また、NPO 法人の協力を得てイベント等での設置も可能である。

しかしながら、対象年代にとって最も身近である学校への設置は「面白半分、興味本位、いたずらに乱用してしまう可能性が高い」と現段階では不可能であるとされた。

5) リーフレット全体への意見・感想

全体への感想を表 17 にまとめた。第 1 段階の調査結果をベースに作成したリーフレットだが、第 1 段階での協力者が少ないことからデータの信頼性に欠けるという指摘が 3 名よりあった。第 1 段階の量的データを記載するか否かに関して検討の必要性が示された。また、「相手ありきの問題なので」とパートナーとのコミュニケーションについてもう少し踏み込んだ内容のほうが好ましいという意見があった。20 代評価者の結果からもパートナーとのコミュニケーションにおける問題点が示唆されたので、より良いコミュニケーションの一助となるよう内容を改善していく必要がある。

表 16. 勤務先への設置可否

職種	可否	理由
助産師	可能	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先病院内のトイレ(男女)に設置、待合室にも設置可能 ・避妊指導の際に必要な女性に
保健師	可能	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の場面で担当者が選択して使用することは可能。 ・女性相談、HIV 検査、生活保護、新生児訪問など
養護教諭	不可能	<ul style="list-style-type: none"> ・面白半分、興味本位、いたずらに乱用してしまう可能性が高い
ドラッグストア 販売員	不可能	<ul style="list-style-type: none"> ・前にも何度かチラシを置いてもらえないか問い合わせがあり、実際に置いたりしていたのだが、今いる店長はもともと設置してあるフリーペーパー等以外は設置しない方針であるため。店舗によっては可能だと思う。
泌尿器科医	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の許可が必要。個人の判断では言えません。
産婦人科医	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の経営母体が変更になるため
NPO 法人 理事	不明	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先で対象者と接点があるわけではないので。一般向けのイベント等なら可能。

表 17. 全体を通しての意見・感想

職種	コメント
助産師	<ul style="list-style-type: none"> ・このサイズからすると、コンドームと共に持ち歩いてほしいということでしょうか?情報を伝えたい気持ちはよくわかりますが、あまりに多くの情報を載せても文字が多いと読んでくれないのでは?と思ってしまいます。イラストを入れて、キーワードを入れるようにして文字を減らせたらと思います。あと、コンドーム正しく使える?の円グラフ、N が少ないのが少し気になりました。
保健師	<ul style="list-style-type: none"> ・使用方法・危険性の他に、相手ありきの問題なので、装着について AYA 世代がパートナーと話し合ったことがあるかなどの結果がのっていると、自分以外の同世代とパンフレット読者の比較につながり、自分ごととしてとらえやすくなるのではと感じた。
養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み自体はとてもよいことだと思います。ぜひ、若い人たちが活用しやすいリーフレットを追及して完成させてください！応援しています！！もう少し、時間があれば周囲の同僚にもアンケートに協力依頼してみたかったです。
ドラッグストア 販売員	<ul style="list-style-type: none"> ・ポケットサイズでシンプルなデザインなので、手に取りやすいし、挿絵と一緒に説明も載っているのでもとてもわかりやすかった！私のお店で置けないのが非常に残念ではあるけど、保健体育の教科書のような堅苦しさの無い、気軽に読めるこのリーフレットなら若い男女にも自然に避妊や性について考えてもらえると思った。色々わかっているつもりだったけど、「みんなのトラブル解決」のところを読んで初めて知る事もあったりしたので、自分にも関わる事なのでとても勉強になりました！避妊具を買っていくお客さんは年齢層も様々で中には中学生かな?と思う子も(見た目だけでの判断だけど)いたりするので正直びっくりすることもあり、早いうちからこのような知識を持つことは大事だと思った！
泌尿器科医	<ul style="list-style-type: none"> ・良くできていると思います。
産婦人科医	<ul style="list-style-type: none"> ・よく工夫されていると思いますが、少し字が多いように思います。メリハリがほしいです。
NPO 法人 理事	<ul style="list-style-type: none"> ・研究協力者が 14 名と限られていることから、本当に世の中でのコンドームの失敗ニーズと合致しているのかマーケティングの観点からは疑問視されます。もう少し多い対象者に対する同様のアンケート等があればその情報も参考にしたほうが良いと思いました。全体を通して誠実でイラストの雰囲気から柔らかく中性的な印象を受けました。

3. 第3段階調査のまとめ

リーフレットの対象読者と近い年代である20代の研究協力者からの評価は概ね良好であった。硬い表現ではわからない場合もあること、文字が多く読みにくいこと、より手に取りやすくするための色使いやイラストの挿入など、改善の必要性が示された部分に関しては修正を行う。リーフレットを読んだことにより男性用コンドームを正しく使用することへの必要意識や自信は全員に変化があり、またリーフレットの存在がきっかけとなりパートナーとのコミュニケーションも変化した。「お互いの意識・認識を確認したり話し合うきっかけになった」「話の土台にあげるのに、やっぱり紙があると上げやすい」との意見があり、それぞれがリーフレットを用いて知識を確認するだけでなく、パートナーと共にリーフレットを読み、話し合うきっかけとしても活用できることがわかった。最終版ではパートナーと共に読む場合も想定し、内容をアレンジすることでより良好なコミュニケーションの一助となるものを作成する。

教育・保健医療分野の職種からの評価は、それぞれの領域ごとの視点から、内容の修正が必要な部分が指摘された。大きなポイントとしては、泌尿器科医からの指摘で装着方法を示す際の陰茎の絵が正確ではない点が挙げられ、改善の必要性が示された。また円グラフに記載しているデータのサンプルが14名と少ないことにより信頼性が疑われる点、リーフレットの記載内容そのものの引用文献等が記載されていないので情報の信頼性も判断しにくい点などが指摘され、信頼性を高める必要性も示された。

IV. 第4段階：完成版リーフレットの作成

完成版リーフレットの作成にあたり、第3段階での指摘事項をリーフレットの項目ごとに整理した。指摘事項全てを反映させることはできないため第3段階の調査を経て以下のようにリーフレットの目標と主要項目を立て直し、目標達成に沿った内容とした。

1. 完成版リーフレットの目標

- 1) 男性用コンドームの適切な使用方法を理解し、正しく使用しようと考えることができる。
- 2) 必要時、リーフレットを用いてパートナーと男性用コンドーム使用に関してコミュニケーションをとることができる。

2. 完成版リーフレットの主要項目

- 1) 男性用コンドーム使用時の失敗体験保有率（コンドーム正しく使える?）
- 2) 失敗時の感情・思考（失敗したときどんなことを考えていた?）
- 3) 男性用コンドーム使用目的（何のためのコンドーム?）
- 4) 失敗例に対する対応・予防方法（みんなのトラブル解決）
- 5) 適切な男性用コンドームの使用方法（装着方法）

上記内容中、関連する場所にサイトへのリンクを挿入する。

3. 指摘事項と修正項目

表18に第3段階の調査での指摘事項とそれを受けての修正内容をまとめた。この内容に沿って、完成版リーフレットを作成した。

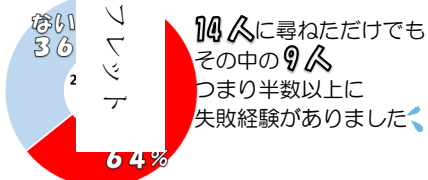
表 18. 指摘事項と修正内容

項目	指摘事項	修正の方向性
(1) 表紙	・色の持つ心理学的効果を取り入れる。	・大衆的な色であり親しみを感じさせるオレンジを裏表紙に取り入れる。
	・イラストを風船アートにする。	・指摘通り修正する。
	・「Do you know how to use condoms?」など疑問形で興味をそそらせる。	・対象の語学力は様々であるため、長文は避ける。
(2) コンドーム 正しく 使える?	・アンケート回答者が 14 名と少なく男女比も不明のため、同様の調査結果等があればその情報も参考にしたほうが良い。	・同様の研究がないため、このまま掲載する。
	・円グラフは失敗経験あり/なしの色を赤/青にして safe/denger 感を出すと分かりやすくて目を引く	・指摘通り変更する。
(3) みんなの トラブル 解決	・文字量が多い。下線や字体・色でメリハリをつけ、イラストやキーワードを入れ文字を減らしたほうが良い。細かい内容はネットで閲覧出来るようにしても良い。	・内容を絞り文字量を減らす。Web サイト作成は時間の関係上不可能だが、既存のサイトへのリンクを示す。
	・顔で性別を表しているが男女どちらの悩みか一瞬ではわかりにくい。	・顔のイラストに加え、性別のマークも挿入する
	・サイズの部分の数式がわかりにくく、必要性が感じられない。	・文字量削減のため数式は削除する
	・サイズの選択肢(種類)がスタンダード以外も書いてあると良い。	・主に小さめ、スタンダード、大きめの別がある程度なので文字量を押さえるために割愛する。
	・膣内にコンドームが残るのは、ゴムのサイズというよりつけ方や外し方の問題が多いのではないか。また、膣内から取れなくなってしまった際の対処法も必要ではないか。	・付け方等については装着方法の項目で説明するので、ここではサイズにのみ言及する。対処法に関しては文字量を抑えるために割愛する。
	・日本で承認されている緊急避妊ピルはノルレボ錠のみ。5000 円での費用はおそらくヤッペ法だと思われる。ノルレボ錠だと薬価が 10000 円＋消費税なので、費用としては 15000 ㎞の案内が best。	・緊急避妊法としてはノルレボ錠とヤッペ法どちらも存在するので費用の案内は変更しない。しかし、誤解を招かないよう、表現を修正する。
	・72h 以内に「受診」ではなく「服用」です。	・指摘通り修正する。
	・コンドームにはラテックス製とポリウレタン製の 2 種類があることを強調して明示したほうがわかりやすい。	・スペースの制約で説明はできないが、ポリウレタンとラテックスという部分を太字にして強調する。
	・潤い不足は潤滑剤だけではなくリラックスやゆっくり時間をかけることでも改善される旨も書いたほうが良い。	・指摘通り変更する。
	・潤滑剤よりローションなど平易な表現のほうが読んでいて苦にならない。	・膣内への使用を目的としたものはローションではなく潤滑剤と呼ばれるため、このまま潤滑剤と表現する。
	・潤滑剤の成分は表示されていないものもあるので「ポリアクリル酸ナトリウム」は NG だけではなく、「非表示」も NG にしたほうが良い。	・文字量削減のため潤滑剤の選び方は削除する。男性用コンドームとの併用で破損リスクが高まる油性のものを避けるべきとのみ記載する。
(4) 装着 方法	・解決策が誰からの情報によるものかわからないため、信頼性に欠ける。	・研究者が参考にした文献等を記載する。
	・重要な箇所をアンダーラインを引いたり、大きさ、色を変えて強調するとより見やすい。	・指摘通り修正する。
	・包皮は根元までたぐり寄せることはできないため、陰茎のイラストに違和感を覚える。	・装着方法をわかりやすく説明するためのイラストなので正確な陰茎の描写を目指してはいないが、もう少し違和感のないものに修正する。
	・装着方法は、わざわざ動画を見ない人もいるので、手が書いてあると説明のイメージがしやすい。文字だけだと使い慣れない人、初めての人、女性はわかりにくい。	・手のイラストを加えてしまうと、男女のどちらもが正確な装着を実施できるべきであるという研究者の伝えたいメッセージが損なわれる可能性があるので、手のイラストは追加しない。
	・オーラルセックスとは?(知らない人もいる)	・若者が使う言葉での表現も追加する。
	・装着と脱着は分けたほうがわかりやすい。	・指摘通り修正する。
	・性感染症の情報(HIV 検査相談マップなど)のリンクがあると良い。	・指摘通り追加する。
(5) 表紙 裏面	・「緊急避妊ができる電話相談窓口(FP ホットライン)病院検索ページへのリンクがあると良い。	・指摘通り追加する。
	・QR コードだけではなく、HPP アドレスも記載したほうが良い。	・指摘通り追加する。
	・サイズが小さい。倍くらいの大きさの方が目につきやすく、読みやすい。	・手にとったり、持ち運んだりする際に羞恥心を感じないようコンパクトにまとめるよう工夫した点であり、他にそのような指摘はないのでこのままのサイズとする。
(6) その他	・広げないと目で追えない。センシティブなテーマなので本のようにめくって手の中で読めるほうが、他の人の目が気にならないと思う。	・ジャバラ折りにして全てを広げなくても目を通せる形に変更する。
	・注意点が強調され、ネガティブ・マイナスイメージが全体的にある。正しく使うことの前に自らの命やパートナーシップを大切に尊いものとしてほしいという研究者のメッセージがもうすこし伝わると良い。	・パートナーとのコミュニケーションについての内容を組み込み、また第 3 段階の 20 代研究協力者からのコメントでもパートナーシップや自分を大切にすることについて言及したものを選び掲載する。
	・使用方法や危険性の他に、相手ありきの問題なので、装着について AYA 世代がパートナーと話し合ったことがあるかなどの結果がのっていると、自分以外の同世代とパンフレット読者の比較につながり、自分ごととしてとらえやすくなるのではと感じた。	・パートナーとの話し合いについてのデータは収集していないが、上記のとおり相手との関係性についても考えをより深められる内容を加える。
	・何が「正しい」のか、何のために使うのか書いていない。HIV 増加を止めるため MSM についてコメントがほしい。	・コンドーム使用の目的を明記し、同性間でも感染予防のために必要である旨を記載する。

コンドーム正しく使える？

Q コン
は？身

使用中の破損や脱落の経験
に訪ねてみたところ……



14人に尋ねただけでも
その中の9人
つまり半数以上に
失敗経験がありました！

Q. その時の状況は？

♂「空気を抜けていなかったためにコンドームが破れ、精液が漏れてしまった。緊急避妊法をとったが、100%の効力ではないので不安だった。」

♀「相手が射精した事を言わずに挿入し続けたためコンドームがずれて精液が漏れた。子供ができれば人生変わってしまうんだと不安になった。」

このリーフレットでは**避妊・性感染症予防**効果を高めるために、正しいコンドームの使い方を説明します。使用方法を理解し、適切に取り扱うことで、このような失敗の可能性を減らすことができます。



右のページで失敗したときの状況についてもう少し詳しく見てみよう。

失敗した時、 どんなことを考えていた？

♀相手に装着を任せ結果、途中で外れた！
原因が分からなかったけど…「相手の尊厳を傷つけるのが嫌で、言及できず…」

♂「モタモタしてムードを壊したくないという気持ちもあって…」焦って装着した結果、射精後気づいたら外れていた！

慌てて失敗したり、相手に気をつかって話し合いができなかったりするみたい。

その結果…？

♂「緊急避妊という肉体的負担に加え、精神的な負担を相手にかけてしまったと反省。」

♀「生理が来るまで不安でした。」

♂「申し訳ないという気持ちでいっぱい。」



お互いにネガティブな気持ちになっているようです。

何のためのコンドーム？

望まない妊娠や性感染症から大切な相手と自分を守るため。お互いのために使うものだから、遠慮せずパートナーと正しい使い方について話し合ってみよう！

性について真面目に考えることは決して恥ずかしいことではなく、幸せに過ごすためにとても大切なことです。

※経口避妊薬(ピル)服用中や、同性同士の場合でも感染予防のためにコンドームは必要です。性感染症は誰もがかかると可能性があり、症状がでないことも。気付かないうちに生殖機能にダメージを受け、男女共に不妊症の原因になることも。

みんなのトラブル解決！



「♀コンドームをつけると痛くて、
つけない方がいいと感じた。」

👉 痛くない方法を探してみよう！

潤い不足やラテックスアレルギーかも。
潤い不足はゆっくり時間をかけたり、潤滑剤を使ったりすることで軽減します。ただし**油性潤滑剤はコンドーム破損の原因**になるのでNG！ラテックスアレルギーの人は、**ポリウレタン製コンドーム**を使おう。

「♂サイズが合わなかったから装着が不完全で膣内に残ってしまった。」

👉 適切なサイズを知ろう！

コンドームのサイズは**ペニスの太さ**で決まるよ！スタンダードなサイズのもは直径33～36mm。小さめ・大きめのものもあるのでちょうどいいサイズのものを探そう。



「♀(失敗後)生理が遅れ、焦った。」

👉 緊急避妊 & 性感染症検査を！

性交後 72 時間以内に薬を服用し緊急避妊法を取ることができます。費用は 5000 円～15000 円前後。病院検索ページ！

Dr 北村のクリニック



<http://www.jfpa-clinic.org/search/ec-search.php>

性感染症は病院で検査できますが、保健所・保健センターでは**無料匿名**で検査可能です。

HIV 検査相談マップ



<http://www.hivkensa.com/>



～あなたと大切な人を守るために～

CONDOMS

HOW TO USE

大人になるために知っておきたい

電話相談「思春期・FP ホットライン」

～体や心の悩み/性のこと/避妊全般の相談～

03-3235-2638 受付時間：月～金 10:00～16:00

(祝祭日は休み)

参考資料

- ・一般社団法人日本家族計画協会 HP
- ・オカモト株式会社 オカモトコンドームズ HP
- ・北村邦夫(2008) 思春期 Q&A 日本家族計画協会
- ・相模ゴム工業株式会社 HP
- ・産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2014
- ・紳也's ホームページ
- ・ジェクス株式会社 HP

本リーフレットは 20 代の研究協力者 15 名と性に関わる 7 名の専門家の皆様にご協力いただき作成しております。


作成：聖路加国際大学大学院修士課程


三上 文香 ☎ 14MWO14@slcn.ac.jp

指導教員：聖路加国際大学 子どもと家族の看護領域教授
森 明子 2015 年 12 月作成

事前の準備

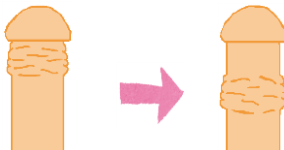


- ペニスサイズに合うコンドームを選びます。

- ラテックスアレルギーの人はポリウレタンのものを選びます。
- ハードケースに入れて持ち運びます。化粧ポーチや財布はコンドームが劣化するので不適切。固い名刺入れなどがおすすめです。
- コンドームを傷つけないよう、爪は短く切りやすりをかけておきます。

- ③ 巻いてある部分の構造で裏表を確認。裏表逆だと巻き下ろせないよ！


※一度亀頭に触れたコンドームには精液が付着している可能性があるため、間違えた場合は裏返して使うことはせず、**新しいコンドーム**を使用してください。

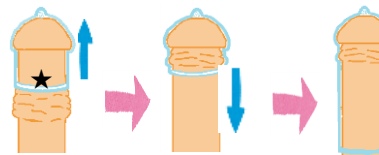
- ④ まず亀頭を露出させます。ペニスの皮膚をさらに下方に引っ張り、陰茎(サオ)の皮膚を伸ばします。



ココがPoint！

- ⑦ 巻き下ろしたら、イラストの★の部分を持ち、包皮ごとコンドームを先端方向に持ち上げます。すると、根本に余っていた皮膚が持ち上がり、まだコンドームをかぶせてない部分の皮膚がピンと張った状態になります。

- ⑧ 持ち上げた手はそのまま、反対の手でコンドームを再び根本まで巻き下ろします。



はずし方



- 射精したらすぐに根本でコンドームを押さえて、ペニスを抜きます。抜くのが遅いとペニスとコンドームの間から精液が漏れてしまいます。

- 使用後のコンドームは口を縛って捨ててください。

動画でも確認してみてね！

ビルコン&Link-R
コンドームの正しい付け方




<https://www.youtube.com/>

装着方法



- ① 勃起したら挿入前にコンドームをつけます。射精前から微量の精子は出ているので射精時のみの使用では不十分。

※性感染症予防の為に**オーラルセックス(フェラやクンニ)の時もコンドーム**が必要です。フルーツフレーバーのコンドームもあるよ。オーラルセックスに使ったコンドームはキズがついている可能性があるため、挿入時は新しいコンドームを使いましょう。

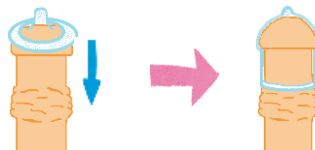
- ② コンドームを袋の中で端に寄せて、袋を開けきります。爪や袋の切り口で傷つけないよう注意して取り出します。



- ⑤ 精液だめの部分をつまみ空気を抜きます。

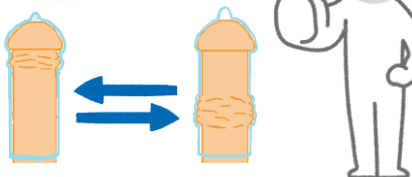


- ⑥ 亀頭にコンドームを密着させ、根本の皮膚が余っている少し上の部分までゆっくり巻き下ろしていきます。陰毛を巻き込むと破損の原因となるので巻き込まないように注意します。



- ⑨ 装着完了！⑦⑧の手順を踏むことで、包皮とコンドームが一体化し、摩擦により破れたり、膣内で抜けてしまったりする可能性が少なくなります。

包皮とコンドームが一緒にうごくからスレにくい！



一緒にリーフレットを作ってくれた20代からのメッセージ



- ♂ コンドームは2人で一緒に選ぶのがオススメです！一緒に選ぶと使い方から何が気持ちいいという話まで自然に出てくるし、お気に入りのコンドームを見つけるとHもより楽しくなる！

- ♀ そのほうがかわいらしく見えると思い、男性に任せきりでしたが、後悔するのは自分だなと思いました。

また、コンドームを正しく使ってくれる男性は女性にとって魅力的に見えます！「真摯だなあ」「大切にしてくれてるなあ」と直接響くので、これを機に株を上げてください。

※体験談やメッセージは協力者から寄せられたものを抜粋・編集し、掲載しています。

第5章 考察

開発した「AYA 世代の男女が適切に男性用コンドームを装着できるようにするためのリーフレット」が AYA 世代に与えると期待される効果と実際の活用方法について考察する。

I. 作成したリーフレットにより期待される効果

斉藤, 町浦, & 末原(2011)は、性感染症予防を目的とした男性用コンドーム使用の自己効力感の属性としてパートナーとのコンドーム使用に関するコミュニケーション能力・コンドームの使用技術の 2 点を挙げている。また、山口, 小笠原, & 堀田(2007)は避妊を成功させるための 5 つの構成要素(能力)として、「性交時避妊は必要だと思うか(避妊に対する潜在的準備)」、「避妊について相手と話し合うことができるか(コミュニケーション能力)」、「性交を経験する前に自分で避妊の知識・技術を習得することができるか(習得能力)」、「避妊具を自分で入手することができるか(入手能力)」、「相手もしくは自分が避妊していなかった場合(危機対処能力)」を挙げている。これらの要素のうち、コミュニケーションの能力と正しい男性用コンドーム使用の知識・技術の習得は両研究間で重複する要素であり、かつ本研究においても 20 代男女へのリーフレットの評価アンケートの結果から多く語られていた項目である。この 2 つの要素に本リーフレットがどのような効果を与えうるかの考察を通して、本リーフレットに期待される効果を以下に記す。

1. 正しい男性用コンドーム使用方法の知識・技術に及ぼす影響

作成したリーフレットでは男性用コンドームの選択や管理から装着手技まで、実際に使用した際の破損や脱落のリスクを減少させるための情報を提供している。また、福本 & 森永(2005)の研究同様「20 代男女の男性用コンドーム使用時の実態調査」で、男女ともに性感染症への意識が乏しいことが明らかになったため、性感染症予防も男性用コンドーム使用の重要な目的であると明記し、粘膜・体液の接触を防ぎ性感染症予防に寄与するよう男性用コンドームを装着する適切なタイミングも記載した。

今回の研究ではリーフレットを読む前後で知識の変化を測定する調査は実施していない。しかし、試作版リーフレットを読んだことで「自分の使い方が間違っていたことを認識することができた」「避妊だけのためでなく、性感染症にも気をつけるべきだと思った」など、正しい知識の習得につながったとされる意見が挙げられ、本リーフレットを知識提供媒体として活用できることが示唆された。また、『正しいつけ方』って習ったことがな

かった」とこれまで学習の機会がなかったことを記載した者もあり、具体的な男性用コンドーム装着方法を AYA 世代が入手できる環境を整える必要性も示された。

知識の入手のみでは実際の行動変容はもたらされないことが先行研究で明らかになっているが、自己効力感と実際の行動には関連があるとされている(尼崎 & 森, 2011; 大石 et al., 2006)。そのため、知識の入手に加え、正しい男性用コンドーム使用の自己効力感を高めることが実際の場面における適切な使用に繋がると考えられる。試作版リーフレットの読者に「今後男性用コンドームを正しく使用することへの必要意識や自信に変化があったか」を尋ねたところ、全員が「ある」と回答し、リーフレットを読むことによって自己効力感が高まったと考えられる。「使用時に意識して装着の仕方に注目すると思う。間違っていた場合、指摘できると思う。」と、相手に対する関わりに対しても自己効力感の高まりが生じた協力者も存在した。

避妊・性感染症予防に関する教育プログラムの評価研究では、HIV 陽性患者からのメッセージの提示によって身近さを認識させたことが、参加者の自己効力感を高めたとされている(工藤, 2013)。本研究でも AYA 世代と同年代の協力者の失敗談を記載することで、読者にとって身近さを感じられる内容となるよう意識した。「想像していたより多くの人々が失敗しており、今後自分も失敗する可能性があるかもしれないと感じた」「自分の経験のみではわからないことを他の人の意見を読むことで、必要意識につながりました」などの意見があり、同年代の体験に触れたことで、男性用コンドーム使用時の失敗を身近なこととして捉えることができ、正しく使うことへの自己効力感の向上につながったのではないかと考える。

さらに、完成版リーフレットでは代理的体験を通して読者がより自己効力感を高められるよう 20 代研究協力者からのメッセージを記載した。「そのほうがかわいらしく見えると思います、男性に任せきりでしたが、後悔するのは自分だなあと感じました」と、リーフレットを読んだことによる協力者の意識変容を記載し、身近なモデルの意識変容レベルでの成功体験を目にすることで、読者が代理的体験により更に自己効力感を高められることを狙いとした。

以上より、本リーフレットは正しい男性用コンドーム使用の知識・技術習得のための情報源となることに加え、正しく使用することへの自己効力感を高める媒体としての使用可能性が期待できる。

2. コミュニケーションに及ぼす影響

性交には妊娠・性感染症への罹患リスクが伴うので、性交を行うか否か、リスクに対してどのような予防策を講じるかなどといった話し合いはもちろんのこと、男性用コンドームを使用する場合にも使用法について十分なコミュニケーションをとることが望ましい。そして、パートナー間でのコミュニケーションには、互いの関係性が非常に密接に影響すると考えられる。

男性用コンドームの使用には性役割態度や男女間の力関係などのパートナーとの関係性が影響を与えていると言われている(福本, 2005)。男性用コンドームは男性器に装着するという性質から、その使用に関しては男性が主導権をもっているとされており(伊藤 et al., 2012)、本研究の「20代男女の男性用コンドーム使用時の実態調査」においても、男性用コンドームの装着に女性は積極的に関与していない傾向が明らかになった。しかしながら先行研究同様、破損や脱落などの失敗時には女性の方がネガティブな感情を抱きやすく、生じうるリスクを重大に捉えている傾向にあった(福本, 2005; 伊藤 et al., 2012; 山口 et al., 2007)。先行研究では男性より女性の方が男性用コンドームを使用したいと思っても実行できない、つまり自分の意志通りに避妊行動をとれない可能性も示唆されている(福本, 2005)。

男性用コンドームの使用に関して女性が積極的に関与できていない要因として、羞恥心から避妊の習得や避妊具の入手が困難であるということや、パートナーからの拒絶を恐れて男性用コンドームの使用を提案できないことなどが挙げられている(福本, 2005; 山口 et al., 2007)。本研究でも「相手の尊厳を傷つけるのが嫌で(男性用コンドーム使用時の失敗理由に言及できなかった)」とパートナーの反応を気にして十分なコミュニケーションを取れなかったケースが存在した。また、「そのほうがかわいらしく見えると思って(男性用コンドーム装着は男性に任せきりだった)」と、男性にとって魅力的な女性像は避妊・性感染症予防に積極的に関与しない女性であると考え、そのように振舞っていた者も存在した。先行研究において女らしさの社会規範として女性には他者の要求を受け入れることが期待され、性交渉の場面においても男性優位の力関係が存在していることや、儒教に基づく封建的な男尊女卑の考え方から性関係は男性本位であるという考えが日本人の性意識・性行動の中にあることなどが述べられている(伊藤 et al., 2012; 灘, 2005)。このような価値観が避妊等に積極的になることは恥ずかしいことである、男性に好ましく思われない、などという意識を生じさせ、女性の性交渉の場における主体性を失わせている

と考える。パートナーとの重要なコミュニケーション方法の一つであり、かつリスクが伴う性交の場で主体性を持たず自己決定ができないことは女性の心身の健康上、好ましい状況であるとは言えない。

更に、男性用コンドーム使用の主導権を男性が握っている状況は男性にとっても好ましくない状況をもたらすのではないかと考えられる。本研究の男性協力者で「モタモタしてムードを壊したくないという気持ち」があったため急いで男性用コンドームを装着し結果的に脱落が生じたというケースがあった。性交渉は男性が主体でありリードするものであるという考えがこのような気持ちを男性に生じさせたのではないかと推察する。自分がリードしなければ、という気持ちは時に大きなプレッシャーになるのではないかと考える。男女双方が性交時の責任を共有し積極的に関与することで、互いに必要以上の緊張を強いられることはなく、また知識や思いを共有することができ適切な男性用コンドーム使用と健全なパートナーシップの形成に繋がるだろうと考える。

そして、男女双方が積極的に男性用コンドーム使用に関与していくために重要になるのがコミュニケーション能力である。双方ともに性役割に対して平等な考えであればパートナー間でのコミュニケーションは円滑に進むと考えられる。しかし、先記のような固定観念をどちらかが有している場合、例えば女性の積極的関与を好まない男性や主体性を持とうとしない女性がパートナーである場合は男性用コンドームの使用についてパートナーと互いに意志を伝え合うことは困難になることが予想され、円滑なコミュニケーションを促進するためのサポートが必要である。評価アンケートにおける、試作版リーフレットが「性交・男性用コンドームの使用に関するパートナーとのコミュニケーション」にどのような影響を与えたかという質問項目では、20代協力者の全員がポジティブな影響があると回答した。「話の土台にあげるのに、やっぱり紙があると上げやすい」「いきなり話し出すよりはこういった物があると話しやすい」とのコメントから、コミュニケーションをとる際の抵抗感を減少させるツールとして活用でき、パートナー間のコミュニケーションのサポートになりうると考えられる。

更に、単に話しやすくするための媒体であるという面だけでなく、男女の相互理解にも役立つ可能性が示された。試作版リーフレットは体験談として20代男女の失敗時の状況やその際の感情等を記載している。これにより「お互いの意識・認識を確認したり話し合うきっかけになった」との意見があった。この利点をより強めるために、完成版リーフレットでは失敗時の男女の感情や思考に試作版よりもフォーカスを当てた記載を加えた。

これにより、作成したリーフレットには男女が双方の心理や思考を理解し平等な性役割を獲得することを促し、パートナーとコミュニケーションをとる際の 1 つのツールとしての使用可能性が期待できる。

Ⅱ．リーフレットの活用場面

作成したリーフレットにより先記のような効果が期待できるが、そのためには AYA 世代がリーフレットを入手する必要がある。

教育・保健医療分野の職種を対象とし、それぞれの勤務先でリーフレットが設置可能か尋ねた結果では、助産師と保健師が可能であると回答し、産婦人科を備えた病院と保健所での活用可能性が示された。20 代の研究協力者に病院・診療所、保健所にリーフレットが設置してあった場合、手に取りやすいか尋ねたところ、9 割が手に取りやすいと回答した。20 代が手に取りやすいと感じる場に設置可能であるため、実際にその場を AYA 世代が訪れた場合、手に取る可能性は高いと考える。しかし、病院・診療所や保健所は多くの AYA 世代にとって日常的に足を運ぶ場ではないため、より多くの AYA 世代が足を運ぶ場にも設置する必要があると考える。

ラブホテル・ドラッグストアも、設置してあった場合は手に取りやすいと 20 代研究協力者が回答した場所である。ラブホテルは性交の際に、ドラッグストアはコンドームを入手する際に訪れる可能性が高い場所であるため、設置した際は情報が必要な者の手に届きやすいことが予想される。だが、今回の研究ではラブホテルへの設置可否は調査しておらず、また風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律により、18 歳未満のラブホテルの使用は禁止されている。そのため、AYA 世代を対象とする上ではドラッグストアへの設置がより好ましいと考える。今回の研究協力者であるドラッグストア販売員の店舗では設置不可との結果であったが、各店舗の判断により設置可能な店舗もあるとのことで、AYA 世代が多く立ち寄る地域の店舗に設置することで必要な若者に入手の機会を作ることが可能であると考える。ドラッグストアに設置する場合は、AYA 世代が自らリーフレットに手を伸ばさなければならないが、男性用コンドームのパッケージに封入する、あるいは男性用コンドーム購入時にレジで添付するような形をとることができれば男性用コンドーム使用前に必然的にリーフレットが目に触れることとなる。今回の研究では実施可能性については検討しなかったが、そのような形をとることができれば理想的である。

また、その他に設置するとよいと考えられる場所として「高校」・「大学」が挙げられた。

これらの教育機関は大半の AYA 世代にとって最も身近な場所であるとも考えられ、設置した場合に AYA 世代の目に触れる可能性は非常に高い。しかし、現場の養護教諭(高校)からは「面白半分、興味本位、いたずらに乱用してしまう可能性が高い」との理由で設置は不可能であるとされた。大多数が面白半分に乱用したとしても、その中で 1 人でも情報を必要としている者に届く可能性があるのであれば設置する意義はあると著者は考える。しかし、いたずら等で学生らの雰囲気は乱されるようであれば、教育現場にとってメリットを上回るデメリットも生じる可能性があるため、情報を求める者に正しく届ける活用方法を現場の職員等と検討していく必要がある。男性用コンドーム使用に関するリーフレットの効果についてドイツの高校生を対象に調査した研究では、リーフレットを配布する場合より、リーフレットと共に性感染症に関するクイズを添付し正解者には景品を配布したほうがより効果が高まったことが明らかになっている(Barbara, Charles, & Renate, 2005)。教育現場では単にリーフレットを設置するだけでなく、性教育のクラス内で活用する方法も視野に入れていくべきである。

更に、今回作成したリーフレットは紙媒体であるが、通信環境が整っている昨今においてはインターネットも重要な情報収集源である。平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査によると、高校生の 98.5%がインターネットを利用できる環境にあり、その内 73.2%が情報収集にインターネットを利用している(内閣府, 2015)。インターネット上には不適切な情報も多く、適切な情報源に到達するためには利用者のリテラシー能力が重要になるが、インターネット上へ PDF 形式で掲載することも情報提供の方法として検討していきたい。

Ⅲ. 研究の限界と今後の課題

本研究では「20 代男女の男性用コンドーム使用時の実態調査」をもとに試作版リーフレットを作成し、「試作版リーフレットの評価」を経て完成版リーフレットを作成した。「試作版リーフレットの評価」では改善が必要な点等に加えて、20 代の男女を対象にリーフレットを読んだことによる自己効力感の変化やパートナーとのコミュニケーションの変化など、男性用コンドームの正しい使用に影響すると思われる因子の変化を尋ねた。これにより、リーフレットが AYA 世代に及ぼす効果を推察することができた。

しかしながら、実際の行動変容の有無の評価は行っていないため、真に得られる効果は不明である。また、評価質問紙へ回答した 20 代協力者は 10 名と少なく、対象に 10 代は含ん

でないため、実際の AYA 世代に与える影響は今回の結果で得られたものとは異なる可能性もある。よって、今後は実際の AYA 世代を対象にサンプルサイズを増やし、また追跡期間においてリーフレットの存在による行動変容の有無の調査を行うことが望ましい。

更に、今回作成したリーフレットは AYA 世代の男女が手に取りやすく、読みやすい内容にすることを旨としたため、記載した情報量はかなり絞られている。情報の不足を補うために、関連情報を記載している web サイトへのリンクを示しているが、より詳細な小冊子、あるいはリーフレットの PDF に加え、関連情報も組み込んだウェブサイトの作成なども検討していきたい。

第6章 結論

本研究は AYA 世代の男女が適切に男性用コンドームを装着できるようにするためのリーフレット開発研究である。20 代男女の男性用コンドーム使用時の実態調査で得られたデータをもとに試作版リーフレットを作成し、試作版リーフレットに対する 20 代の男女と教育・保健医療分野の職業従事者からの評価を得て完成版のリーフレットを作成した。

1. 作成したリーフレットは AYA 世代が手に取りやすいように、B5 版サイズに両面印刷で 8 つ折りとしコンパクトなサイズ感とした。タイトルは「大人になるために知っておきたい！HOW TO USE CONDOMES ～あなたと大切な人を守るために～」である。
2. リーフレットの目標として 1) 男性用コンドームの適切な使用方法を理解し、正しく使用しようと考えることができる、2) 必要時、リーフレットを用いてパートナーと男性用コンドーム使用に関してコミュニケーションをとることができる、の 2 つを掲げた。
3. リーフレットの主要項目は 1) 男性用コンドーム使用時の失敗体験保有率、2) 失敗時の感情・思考、3) 男性用コンドーム使用目的、4) 失敗例に対する対応・予防方法、5) 適切な男性用コンドームの使用法、である。
4. 20 代男女による試作版リーフレットの評価により 1) AYA 世代の男女が正しい男性用コンドーム使用法の知識・技術を習得すること、2) 男女のパートナーとコミュニケーションをとる際の抵抗感を軽減させ相互理解を促進すること、の主に 2 つの効果が期待できることが明らかになった。
5. AYA 世代のリーフレット入手方法として、病院・診療所や保健所、ドラッグストア等に設置し自由に手に取れる、あるいは保健指導等で医療者が必要と感じた対象者に手渡す方法をとることができる。また、インターネット上に PDF 形式で掲載し、だれでも閲覧あるいはダウンロード可能な形をとることも検討する。

